

公益財団法人 日本骨髄バンク 第 99 回 業務執行会議 議事録

開催方法:WEB 会議形式で開催

(本会議を WEB 開催することに関して全理事の同意を得た)

日 時:2024 年(令和 6 年)10 月 18 日(金)17:10~17:40

出 席:岡本 真一郎(理事長)、佐藤 敏信(副理事長)、日野 雅之(副理事長)、
浅野 史郎(業務執行理事)、石丸 文彦(理事)、大西 達人(理事)、
瀬戸 愛花(理事)、橋本 明子(理事)、沓沢 一晃(監事)、藤井 美千子(監事)

欠 席:鈴木 利治(理事)、高橋 聡(理事)、福田 隆浩(理事)

陪 席:細川 亜希子(厚生労働省健康・生活衛生局難病対策課移植医療対策推進室室長補佐)
横田 友子(厚生労働省健康・生活衛生局難病対策課移植医療対策推進室係長)
東 史啓(日本赤十字社血液事業本部技術部造血幹細胞事業管理課課長)

事務局:小川 みどり(事務局長兼医療情報部長兼ドナーコーディネート部長)
田中 正太郎(総務部長)、関 由夏(移植調整部長)、戸田 泉(広報渉外部長)
荒井 茂(総務部TL)

(順不同、敬称略)

1 開会

開会にあたり岡本理事長が挨拶した。

2 業務執行会議の成立の可否

業務執行会議運営規則第 6 条により、本業務執行会議が成立した。

3 議長選出

業務執行会議運営規則第 5 条により、業務執行会議の議長は理事長があたるとされ、岡本理事長が議長に選出された。

4 議事録署名人の選出

議事録を作成するための議事録署名人は、業務執行会議運営規則第 8 条により、議長及び出席した構成員が記名押印する。岡本理事長、佐藤副理事長、日野副理事長、浅野業務執行理事がこれに当たるとされた。

5 議事録確認

前回(2024 年 9 月 13 日)の臨時理事会議事録を全会一致で了承した。

[議 事]

1 協議事項(敬称略)

(1)GRID 導入見送りについて … 関移植調整部長

WMDA(世界骨髄バンク機構)とは、世界の造血幹細胞に関するバンク事業が円滑に実施されるよう様々な問題等を集約し、基準作成・情報提供等を行っている組織。

GRID とは、世界共通のドナー識別番号。WMDA が 2019 年に導入開始、各レジストリが GRID へ順次移行をしている。

JMDP は、2007 年から WMDA の認定を受けているが、次回 2027 年の認定更新時、GRID 導入が必須条件となっている。

GRID 導入のためには、システム改修等で最低 2000 万円以上の費用がかかる見込み。改修を行っても年間数件程度の国際コーディネートに限って GRID 対応するということになる。

GRID 導入し WMDA の認定を継続するメリットは、国際的基準を満たしているというステータスの維持、提供するプロダクトの品質等について他レジストリから信頼を得られるという点。導入しないデメリットは、WMDA 認定が更新されない可能性大という点。

国内患者については、アメリカ、台湾、韓国、中国の連携レジストリとは個別契約をしているため、影響はない。海外提供についても、日本のドナーを必要とするレジストリからは引き続きコーディネート依頼があると考えている。

先月開催の国際委員会で本件について審議。委員からは、WMDA 認定がなくとも JMDP の質を各レジストリは理解している、GRID 導入しても国内患者のメリットになるとは思えない、GRID 導入のための費用はもっと有効に使えるのでは、等の意見。

(主な意見)

<岡本> GRID について、欧米では、人種もさまざまにバンクも林立している中、ドナーが移動しても、そのドナーをすぐ identify できるというメリットがあるが、日本の場合、このメリットを活かすことがあまりない。唯一のデメリットが、WMDA の認定が受けられないということ。

しかし、過去の認定更新や国際連携の実績から、認定更新がなくとも、質が悪いというレジストリ評価を受けることは全くないと思う。また、きちんとドナー検索をしてすぐに返答できる体制ができているということも、WMDA でも認識していただいているので、JMDP がかなり異質なものであるという認識を受けるということはない、と考えている。

<日野> メリットがないのであれば、有効にお金を使うのはそのとおриと思う。

<浅野> WMDA 認定を外れても、特に問題がないのであれば、理解した。

<大西> 話を聞いた限りでは、見送るのは問題ないと考える。

<石丸> WMDA メンバーには入っているが、認定を受けてない国は。

<関> WMDA 加盟国は 64 か国。レジストリ数は 105 バンク。うち認定は 26 か国、34 バンク。

アジアで認定を受けているのが、日本、台湾、シンガポール、タイ、中国。韓国は認定を受けておらず GRID 未導入。中国も GRID 未導入。

(決定事項)

一旦 GRID は導入せず、WMDA 認定は外れるが WMDA のメンバーシップは維持。将来的に機会があれば GRID 導入について検討する。

2 報告事項(敬称略)

(1)調整医師新規申請の報告 … 小川事務局長兼ドナーコーディネート部長

令和 6 年 9 月に新規申請の調整医師が 3 名、合計で 1226 名。

(2)寄付金報告 … 戸田広報渉外部長

令和6年度9月現在1億338万7158円の寄付。9月は772万円の寄付をいただいた。前年同期比で20%程度上回っており、ありがたい。

(3)寄付者への報告会開催について … 戸田広報渉外部長

11月に初めて寄付者向けの感謝会・報告会をYouTube配信で開催。次年度以降は恒常的なイベントとして定着させたい。骨髄バンクから、今まで支えていただきありがとうございました、ということ伝えたいと思っている。

タイトル「日本骨髄バンク寄付者様への感謝会、寄付者様に伝えたい三つのありがとう」

配信日時 11月21日木曜日7時～8時 1時間

当法人ホームページ上YouTubeチャンネルから

出演 理事長・移植経験者・提供経験者。進行は広報渉外部職員

目的 既存寄付者の満足度を高め、今後継続化に繋げていくこと

プログラム

イベント趣旨説明、骨髄バンクの活動と歩み、どんな事業を行っているかの説明

ドナー、患者、骨髄バンクから寄付者への感謝

(主な意見)

<岡本> 寄付者への対応として、このような形式は初めてか。

<戸田> イベントとして、こちらから直接的に話しかけるとするのは初めて。

<岡本> 継続的に実施するかは、実際に開催してみて、成果を見て決めていく方向性でよろしいか。

<戸田> 基本的には継続できればと思っているが、反省を踏まえて検討していきたいと思う。

(4)採取件数・患者登録数報告 … 田中総務部長

2024年9月の採取件数は、国内BM56件、PB30件、国際1件、合計87件と、昨年度と比べると若干減少ペース。国内患者新規登録数は153件。

(主な意見)

<岡本> 採取件数が若干下がっているというのは、臍帯血とかハプロとかそういう方向に行ってしまうということか。もう少し様子見を。

<日野> ハプロが保険を通ったので、身近にできるようになったのが大きいかと。

(5)その他(ドナーコーディネイトIT化における最近の動きについて)

… 小川事務局長兼ドナーコーディネイト部長

ドナーコーディネイトのIT化について、今のステータスをまとめて報告する。

①リモート面談

確認検査面談は6月からトライアルを開始し、22件実施。協力いただける医師が少ないため、件数は少ないが、今のところ特段問題なし。11月から全国のコーディネーターができるよう、調整医師への協力依頼、説明を続け、増やしていくというステータスに変わっている。

最終同意面談については、来年度の本格導入を目標。ドナー部とシステム担当でIT化を相当な勢いで進めているため人手不足もあり、手がつけられていない状況。

②電子署名

本格導入済。9月2日から確認検査同意書、10月15日から最終同意書も全て電子化済。

③コーディネーター活動費の請求

全国約160人のコーディネーター活動費の請求については、各コーディネーターが紙の請求書に記入して地区事務局に郵送しているが、この電子化を11月活動分から実施。

④ドナー交通費

確認検査等のドナー交通費は、コーディネーターがお金を用意し、その場で立替えて支払っているが、来年から、ドナーがスマホで請求、振り込まれる形で電子化をする予定。

⑤コーディネーターFAX廃止

コーディネーターとの連絡ツールについては、1年以内にFAXを廃止し、電子化する予定。

(主な意見)

<橋本> ドナー候補になって欲しい人、若い人は、スマホで登録とか、スマホで何かをするのが日常。IT化は速やかに進むように願っている。